分野①　パートナーシップ・子育て

【資料１】

※青字は意見などを受けた修正

Impact

ありたい姿

（9年）

家族の多様性やそれぞれの幸せについての理解のもと、家庭環境によらず子どもと家族が応援され、安心して暮らせるまち

Outcome

どう変わる

長期（9年）

- 自身の家族（パートナーや子ども）を持ちたい人が増える
- 子どもと保護者、家族に、支援やサービスが必要な時に届いている
- 家庭環境によらず、子どもの現在と未来に希望が持てる

中期（3～6年）

- 不妊治療、妊娠、出産などを不安なく迎えられる
- 家族の多様性について、柔軟な理解が一般に広がる
- 子育て家庭に、日常生活での手助けがあり、余裕を持ちながら育児ができる
- 望む子育ての選択肢が用意されている
- 貧困や生きづらさを感じる子どもが減る
- 子どもの将来や、育ちへ不安を感じる保護者が減る

初期（すぐ～1・2年）

①子どもを持ちたいときに、必要なことを知り、必要な支援が受けられる

- 相談できることを知ることができる
- ネット以外の生の情報に触れる機会がある
- 健診や出産の時、医療施設まで無理せず行ける

②出会いや家族の形を知る機会がある

- 家族やジェンダーのことをオープンに話せる

③家庭や地域の中に、家事・育児の協力者がいる

- 育児の合間に見る前提で情報が発信されている
- 困った時に相談できるところがある（子育て支援センター、サポートルーム等）
- 母親が元気な状態を維持できる（自分を犠牲にせずに子育てができる）

④働き方に合う預け先がある

- 職場や自宅の近くの希望の保育園に行ける
- 夏休み、春休みでも気兼ねなく預けられる
- 子育ての拠点としての保育園の充実
- 預かりサービスの使い方が浸透している（一時預かり、ファミサポ等）

④家庭で保育することの良さが感じられる

- 多様な遊び場や遊びがある
- 知り合いがいなくてもつながっていける

⑤個々の育ちや家庭環境に合わせた、相談先や見守り・支援がある

- 困難な状況に対する社会の理解がある
- 子育てに必要なお金・時間が確保できる

Activity/Output

何をする

行政

- 妊娠前にアクセスする情報発信ツールづくり
- 先輩ママ等との交流の場の確保
- マタニティタクシーを健診でも使えるように

- 子育て体験（若い人向け）
- 父親・家族等の協力者を対象にした育児勉強会

- チャット相談の導入
- 施設・サービスの使い方を動画で発信
- 子育てギフト・家事支援
- 父親と子どもをターゲットにしたイベント

- 預かりサービスのお試し利用の推進（信頼感の醸成）
- 子どもが通っていなくても行ける保育園（相談、遊び等）

- 遊べる場所の充実（歩いて行ける、普段と違う遊びができる等）
- 休憩できる場（軽食や水分補給等）の充実（駅、公園、図書館等）
- つながりやすい環境づくり（イベント、情報発信）

- 訪問支援（家事支援・育児支援）
- ひとり親の休業支援
- 児童養護施設・ショートステイの確保
- 児童発達支援放課後等児童デイサービスの充実

協働・共創

- 情報の利用とフィードバック
- 交流の場への参加

- 子育て体験・勉強会への参加
- 協力するための継続的な対話

- 情報の利用とフィードバック
- 支援サービスの上手な活用と発信

- 支援サービスの上手な活用と発信

- 遊び場やイベンドの上手な利用と発信

- 相談や見守り・支援の利用

【参考】主観指標：
子育てしやすいまちだと感じる市民の割合

ワークショップの内容・ロジックモデルの変更点の概要

- ロジックモデルに沿った意見交換が行われ、初期アウトカムについて具体的なイメージが多数出された。
- ロジックモデルの見直しに関する意見は出されなかったが、初期アウトカムの具体的なイメージを踏まえて、文言を調整をしている。
- アクティビティについては、既存の施策・事業を上手に活用するために、行政側は情報発信やお試し利用の取り組みを充実すること、利用者側は上手な利活用方法の発見と発信を積極的に行うことが必要、という観点で多くのアイデアが出された。
- また、少子化が進み園児が減少する中で、子育ての拠点としての保育園の機能の充実についても意見が出された。